

準備委員会企画シンポジウム2

学習動機づけ研究の未来

—教育心理学研究における動向とこれから—

【企画趣旨】

コンピュータ・サイエンスや神経科学の爆発的な発展によって、今日、社会科学を含む諸科学の枠組みが大きく変わろうとしている。教育心理学研究は、教育場面における教授や学習という極めて実際的な問題を扱いながら、行動科学的な実証的視点を有しているが、このような変革の動きはもちろん教育心理学にも無関係ではない。

本シンポジウムでは、教育心理学における学習動機づけ研究に関わる多面的な理論的視点から、（1）それぞれの理論、研究の最新動向はどのようなものか、そして（2）それらの枠組みや強みに基づいて、未来の動機づけ研究はどのように展開していくと考えられるのか、について、各研究領域の知見を踏まえて議論する。その上で、教育心理学における学習動機づけ研究が、5年後、10年後にどのような姿を見せるのかを想像する手がかりになれば幸いである。